

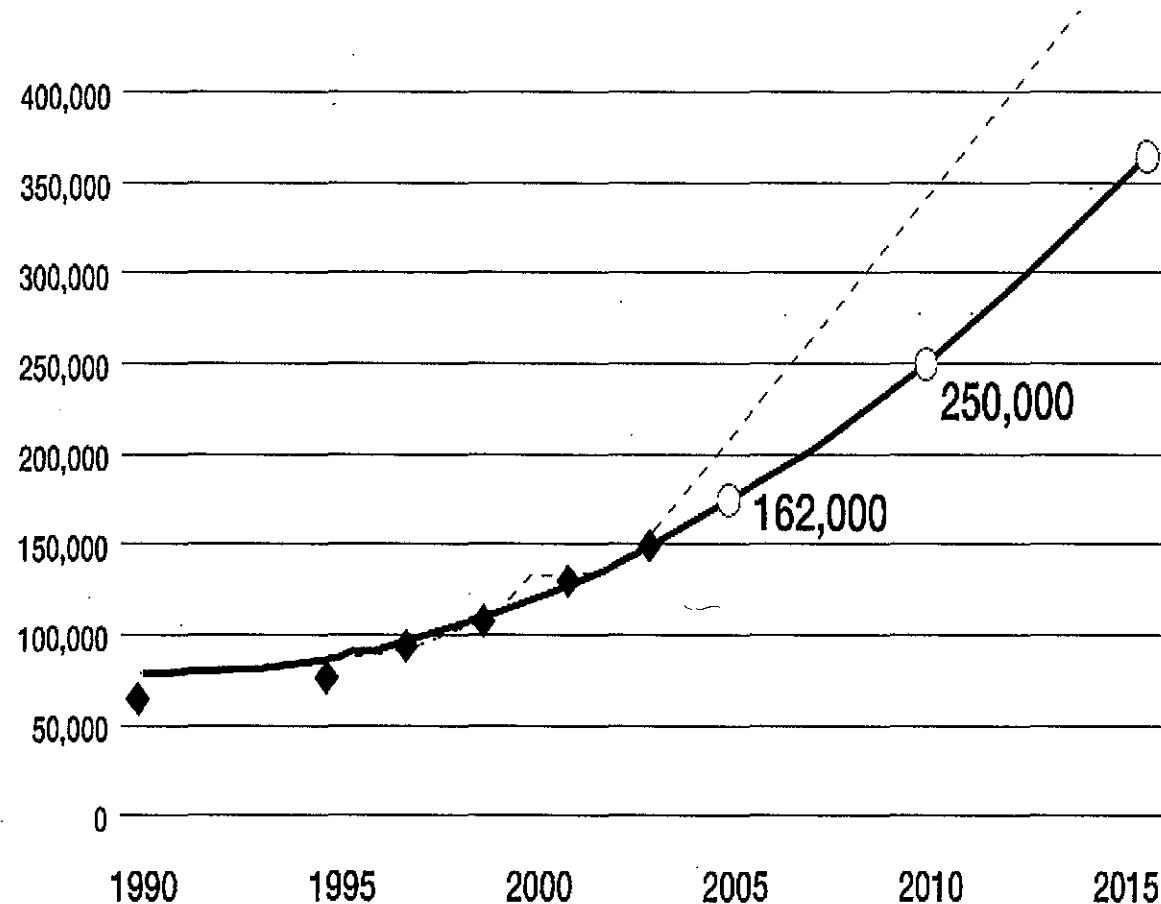


# 放射線治療の研究について

京都大学医学研究科  
放射線腫瘍学・画像応用治療学  
平岡 真寛

# 放射線治療を受ける患者数は急増

2



## 日本の状況

2005年で25%、2015年には40%のがん患者が放射線治療を受けると推定

## 欧米の現状

がん患者の66%(米国)、60%(ドイツ)が放射線治療を受けている

## 背景

- 高齢化社会の急速な到来
- 切らすに治す放射線治療への期待
- IT・画像技術等による放射線治療の高度化

◆：日本放射線腫瘍学会構造調査

○：厚生労働省がん研究助成金(14-6)

# 放射線治療の目指すもの

- がんに対する選択的損傷
  - 生物学的アプローチ
    - 同じ線量が当たってもがんだけが損傷される
  - 物理工学的アプローチ
    - がんに放射線を集中させる
- 放射線治療の効果・有害事象予測
  - Radiogenomics など



## 生物学的アプローチ

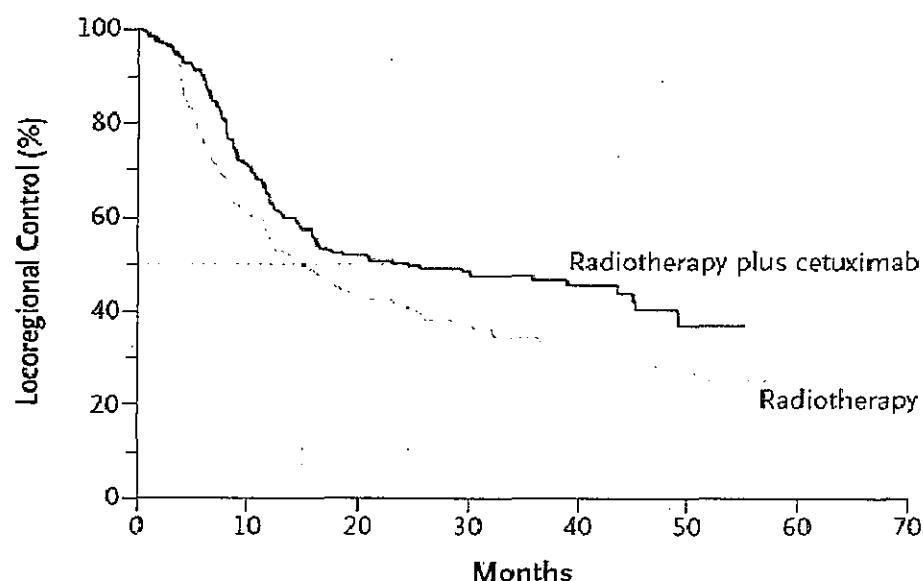
---

- 分子標的薬剤との併用
- 環境標的治療の開発(特に低酸素)
- 重粒子線治療

# 局所進行頭頸部扁平上皮癌

RT + C225 vs RT alone

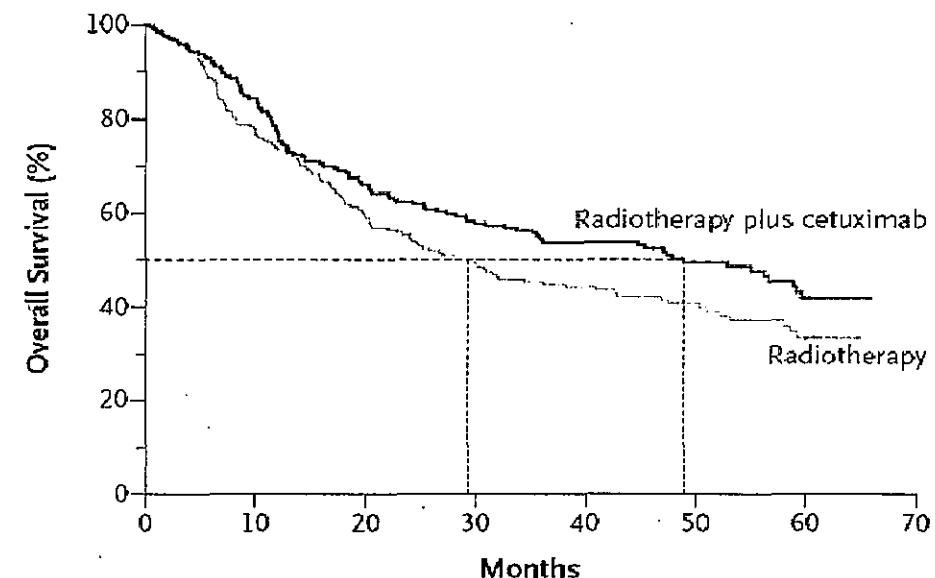
局所制御率



No. at Risk						
Radiotherapy	213	122	80	51	30	10
Radiotherapy plus cetuximab	211	143	101	66	35	9

HR 0.68; p=0.005  
中央値 24.4 vs 14.9 ヶ月

全生存率



No. at Risk							
Radiotherapy	213	162	122	97	73	47	22
Radiotherapy plus cetuximab	211	177	136	116	98	61	24

HR 0.74; p=0.03  
中央値 49.0 vs 29.3 ヶ月

Bonner JA, N Engl J Med 2006

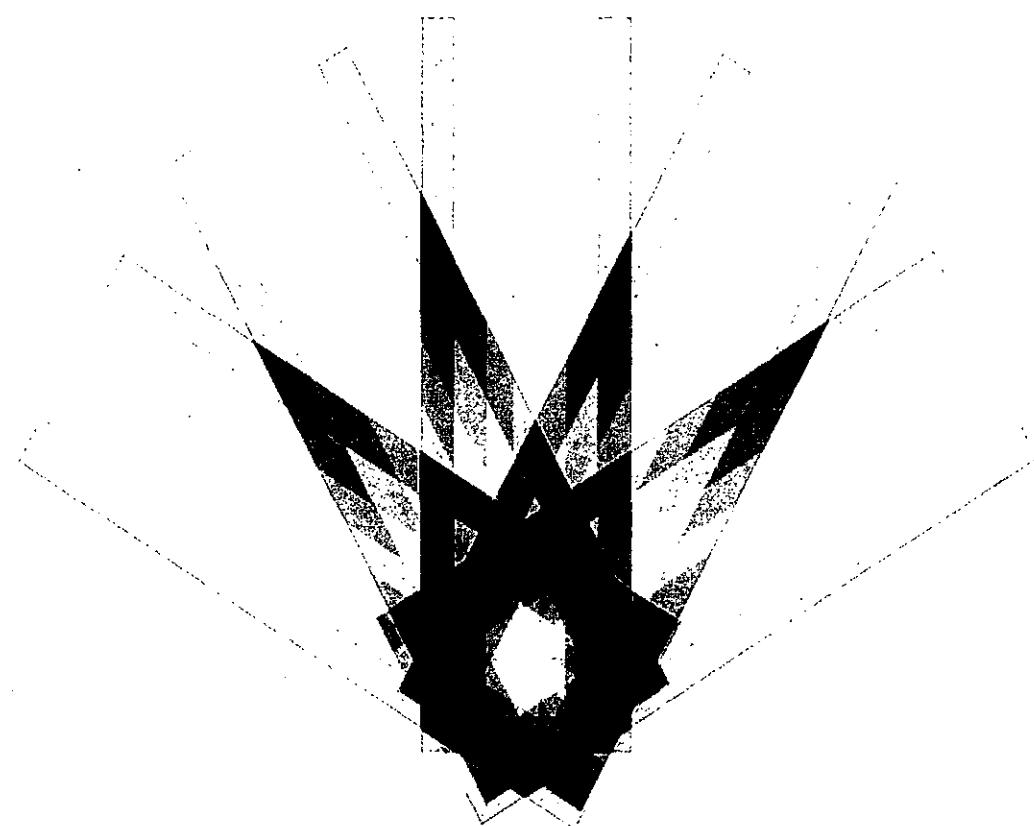
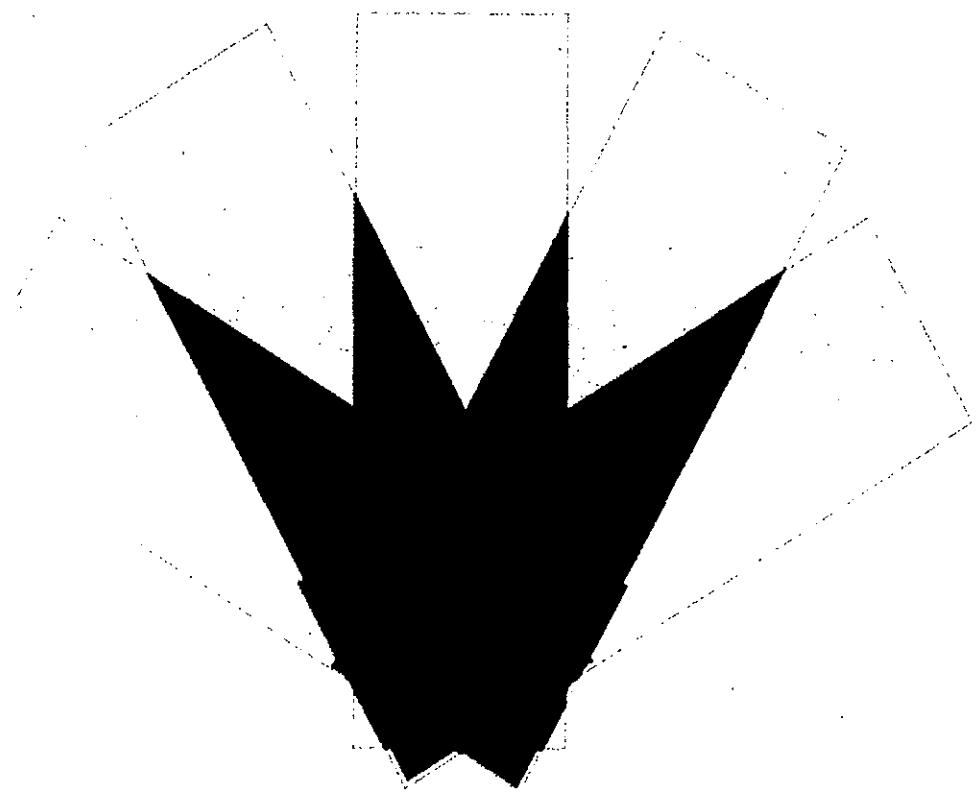
# 物理工学的アプローチ

- 定位放射線治療
- 強度変調放射線治療(IMRT)
- 四次元放射線治療
- 粒子線治療
  - 陽子線治療・重粒子線治療
  - 中性子捕捉療法

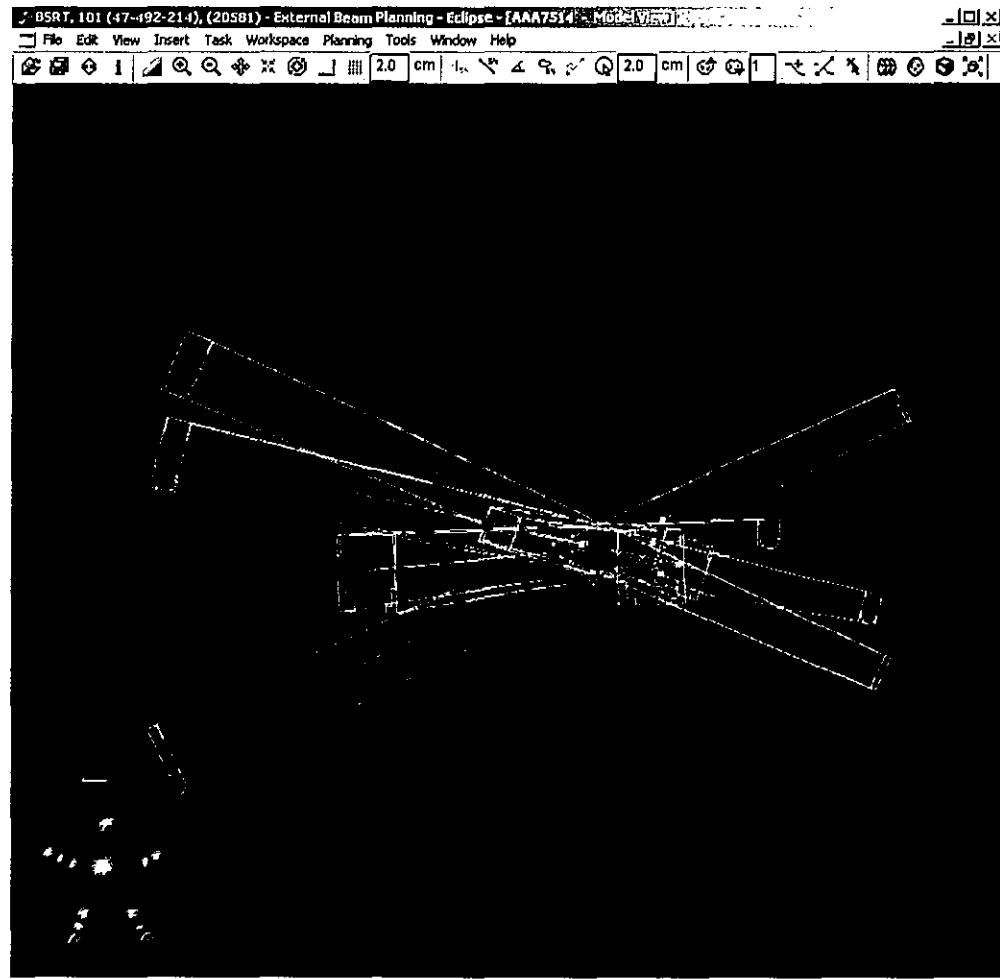
# 定位放射線治療と強度変調放射線治療

定位放射線治療

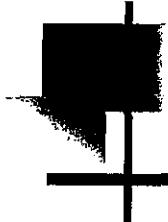
強度変調放射線治療



# 肺がんの定位放射線治療

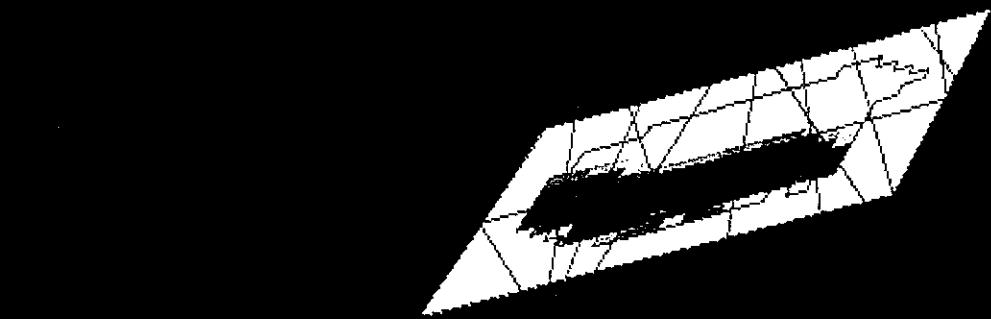
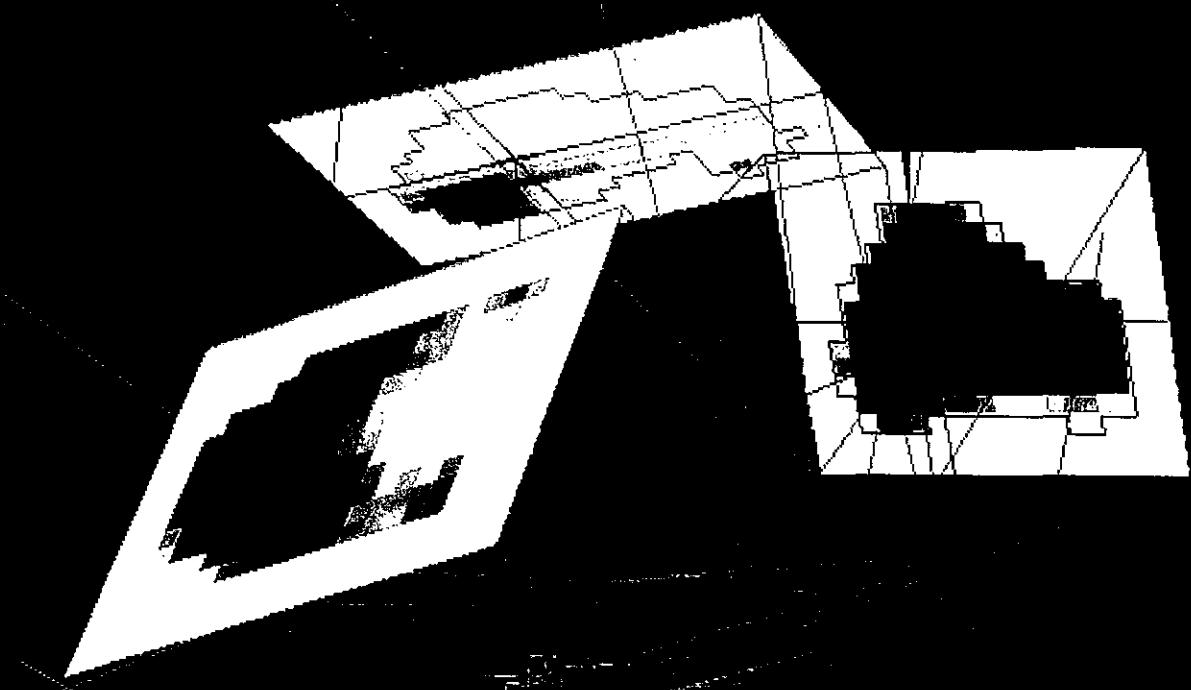
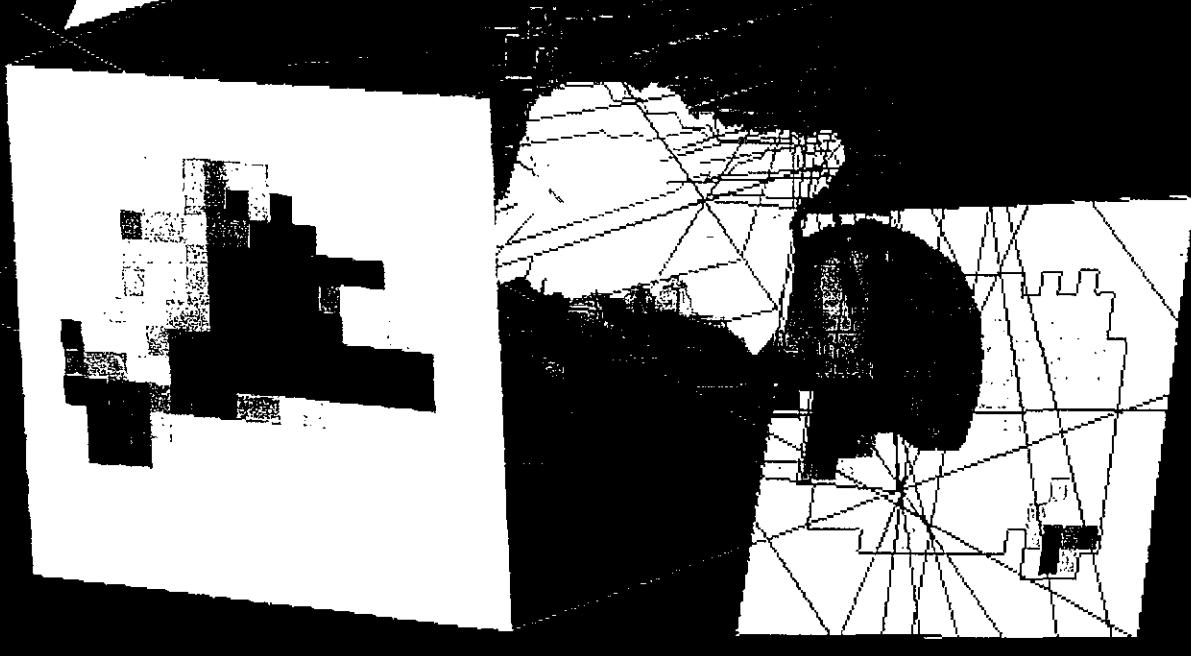


- **線量分割法**
  - 高い1回線量、少ない分割回数：
    - $12\text{Gy} \times 4\text{回} = 48\text{Gy}$
    - $2\text{Gy} \times 30\text{回} = 60\text{Gy}$
- **固定精度**
  - 高線量域を腫瘍に限局させるために高い固定精度が必要（5mm以内）



# 強度變調放射線治療 (IMRT)

## Intensity Modulated Radiotherapy



# Dose Painting



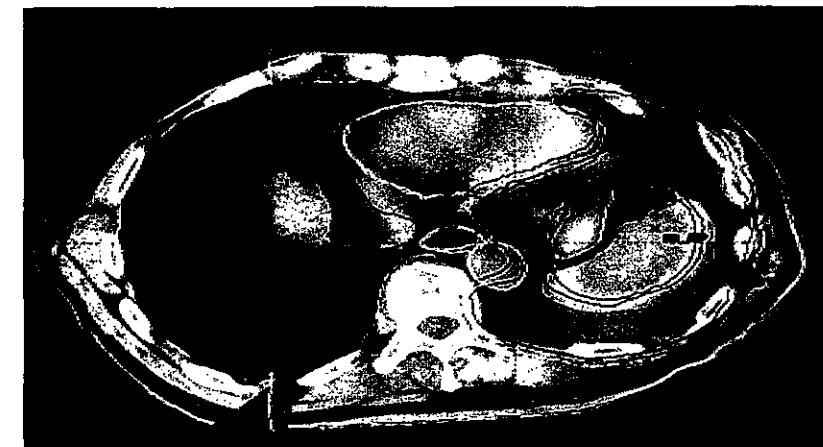
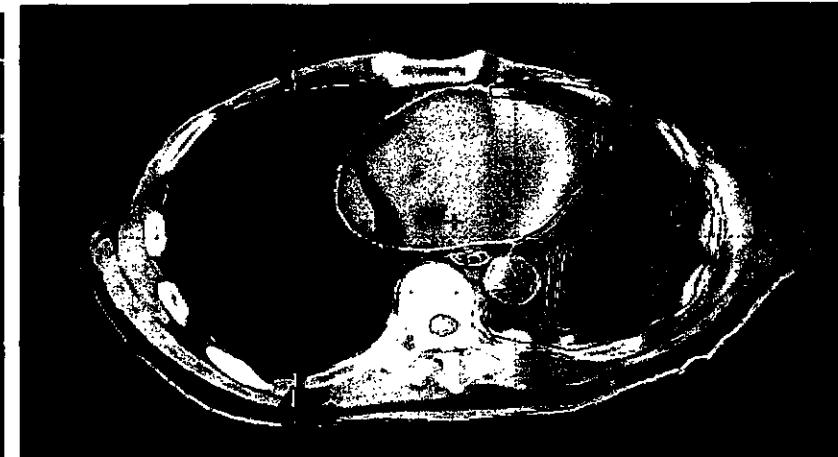
**前立腺 + 精嚢**  
78Gy/ 2Gy/fr./39fr

**骨盤内リンパ節転移**  
66.3Gy/1.7Gy/fr./39fr

**骨盤内リンパ節(予防)**  
58.5Gy/1.5Gy/fr./39fr

**腸管**  
線量は著明に減少

# 悪性中皮腫のIMRT

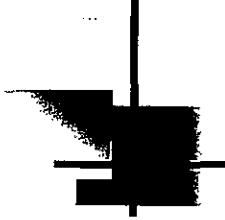




## 高精度放射線治療の登場によって

---

### 至適下治療から至適治療へ

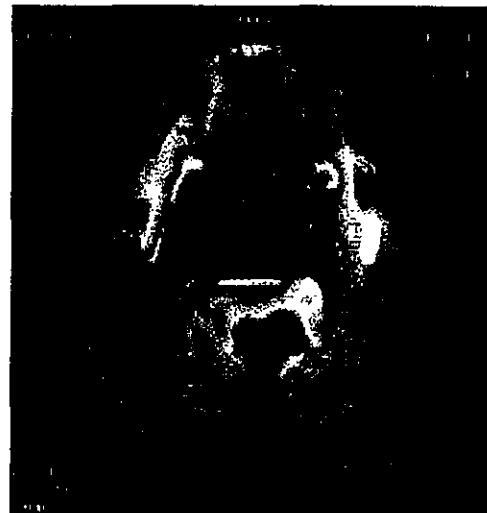


# 放射線治療のこれから

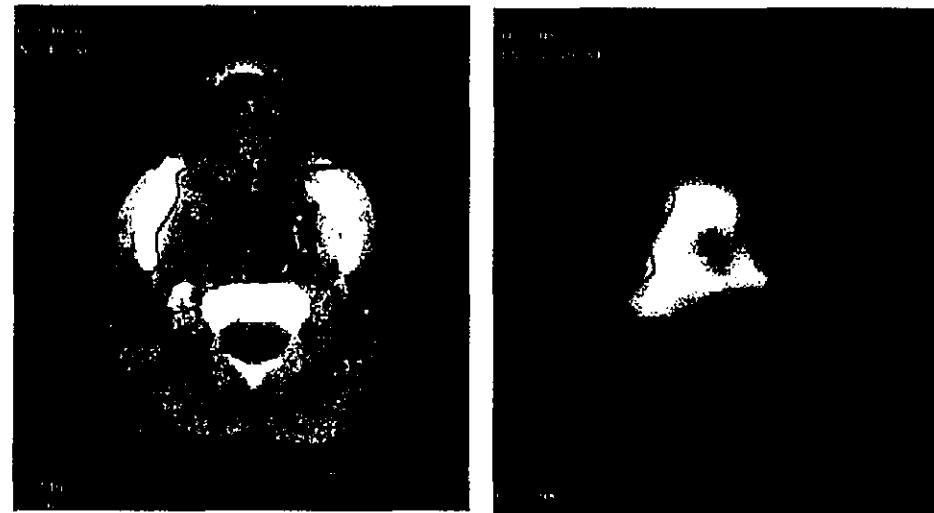
---

- 機器の次世代化
- 診断と治療の統合
- 動きへの対応(三次元から四次元へ)
- 臨床評価
- 適正配置・ネットワーク

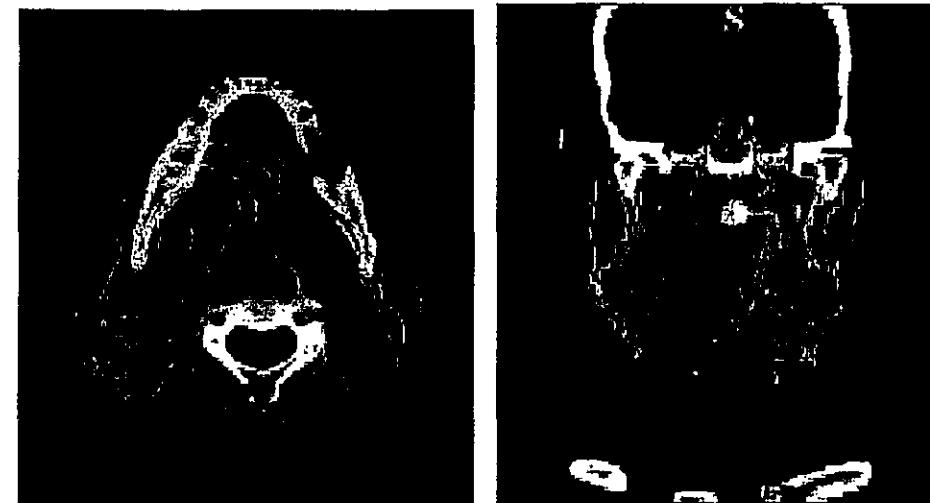
# Cu-ATSM-Guided IMRT



Color-washed image  
of  $^{60}\text{Cu}$ -ATSM PET-scan



CT – PET fusion



IMRT treatment planning

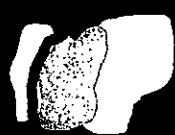
# 放射線治療の個別化医療

GTV

物理的標的容積

生物的標的容積

GTV



生物的標的容積



+



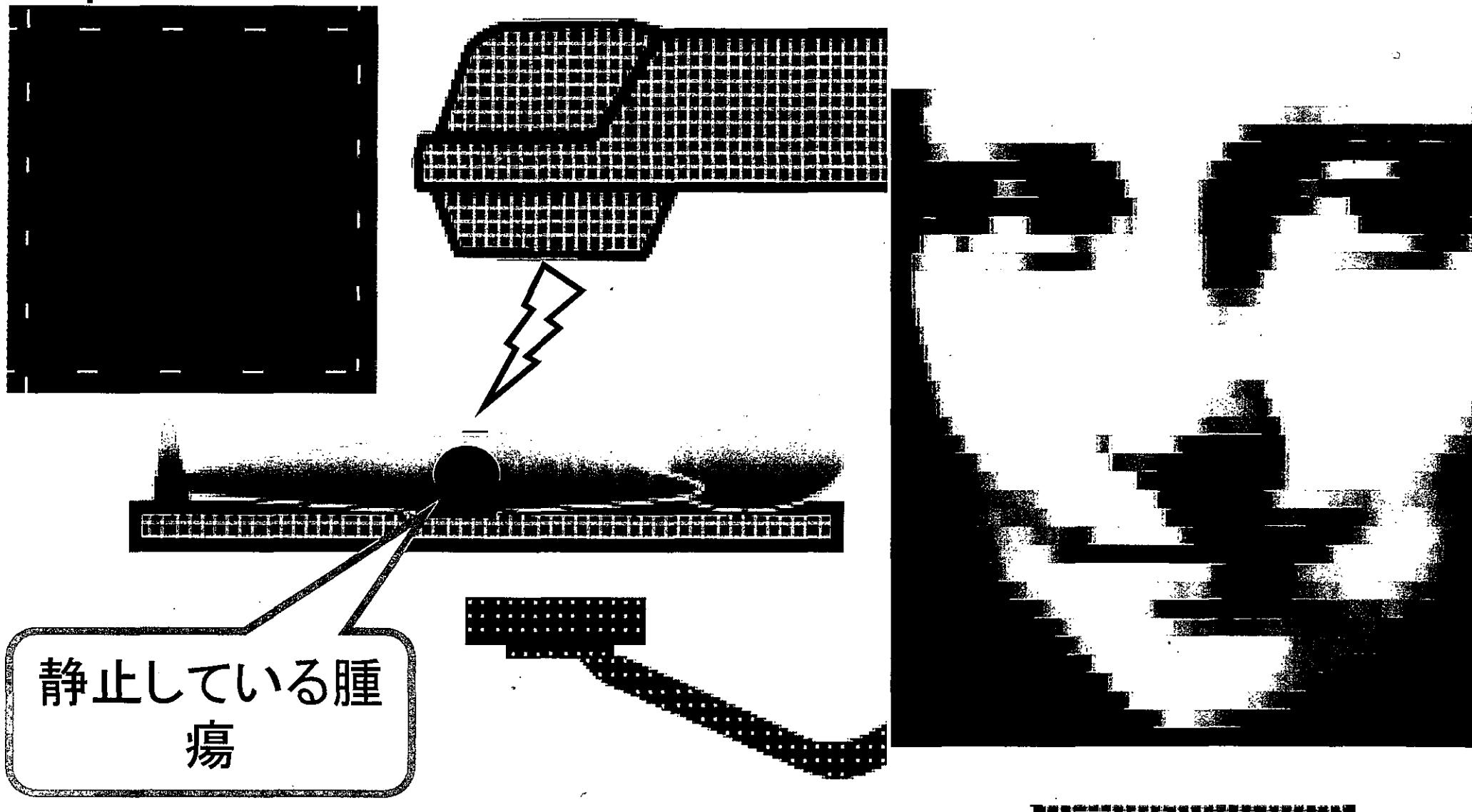
+



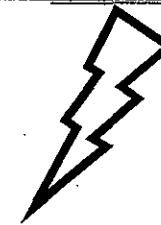
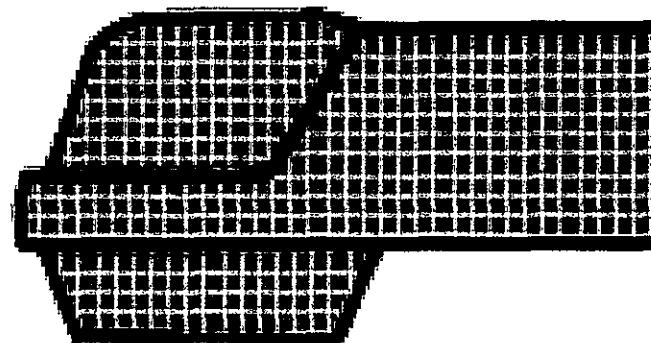
- MRI
- MRS ( )
- PET (IUDR)
- PET (F-miso)



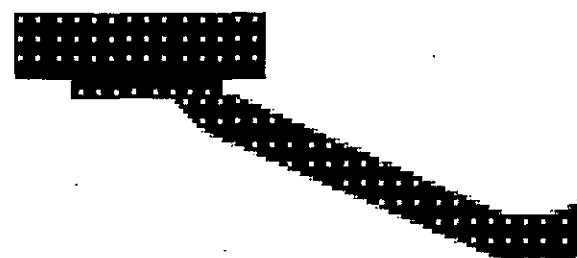
# 強度変調放射線治療 (IMRT)



# 強度変調放射線治療

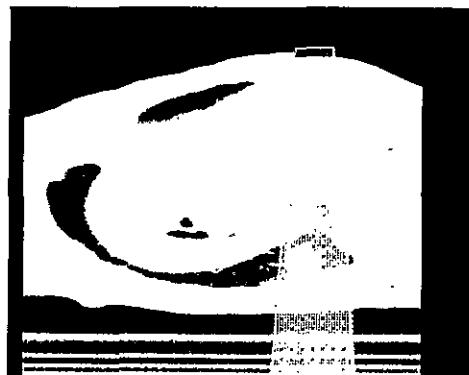


呼吸性移動を  
伴う腫瘍



# 追尾照射技術の有用性

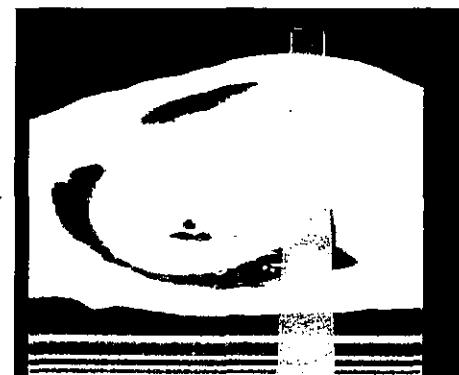
ITV法



- 全動体範囲照射
- 周囲の被ばくが多い

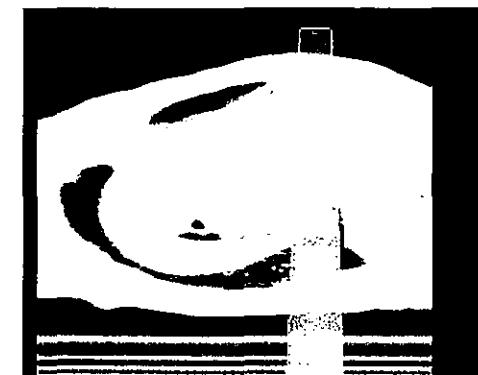
固定ヘッドの従来型ライナックの限界

呼吸同期照射法



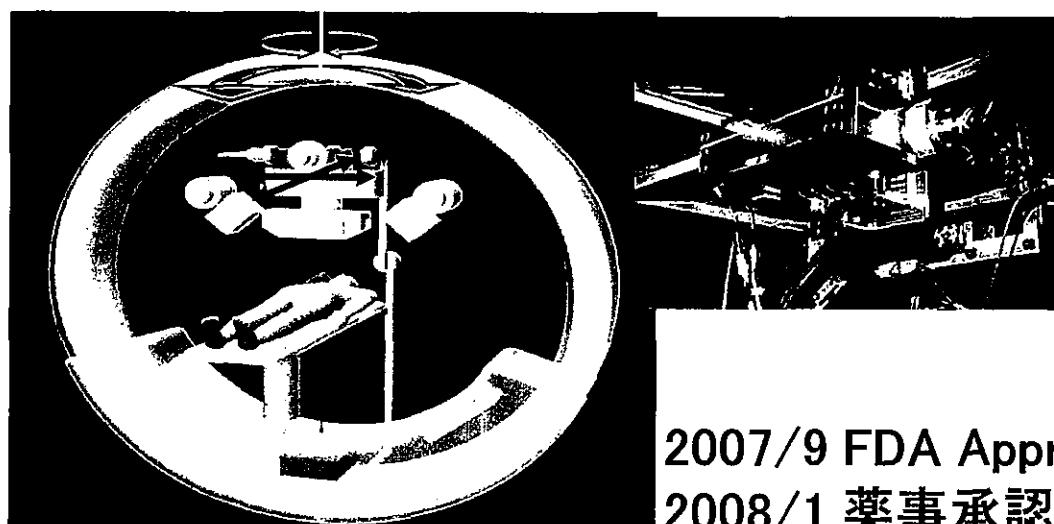
- 体外情報による同期照射
- 治療時間が3~5倍

追尾照射法



- 最小照射野による被ばく低減
- 時間的ロスがない

可変ヘッドによる追尾機能



2007/9 FDA Approval  
2008/1 薬事承認

ジンバル機構による可変ヘッド



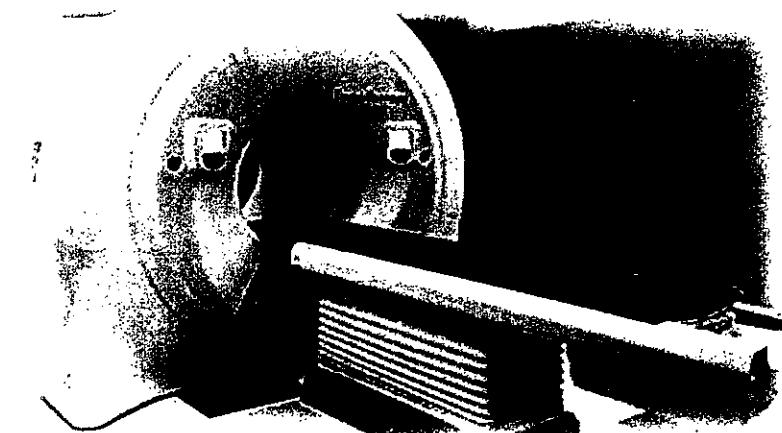
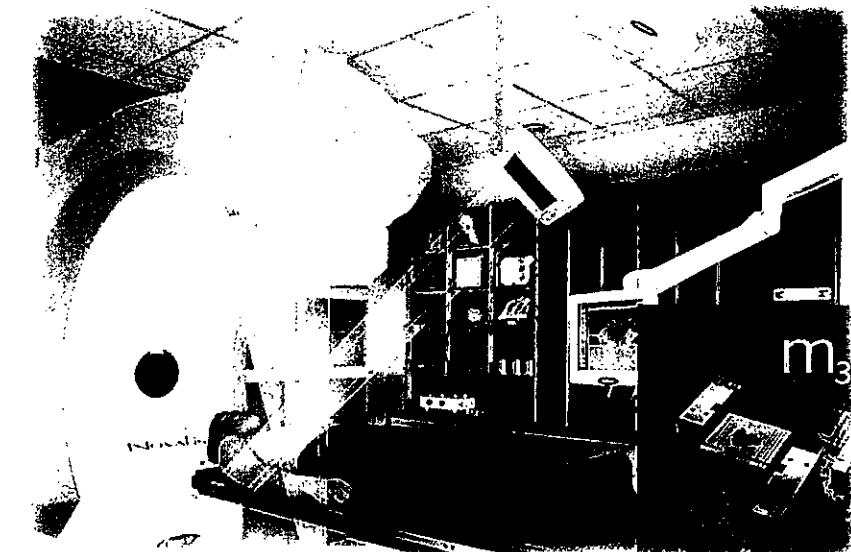
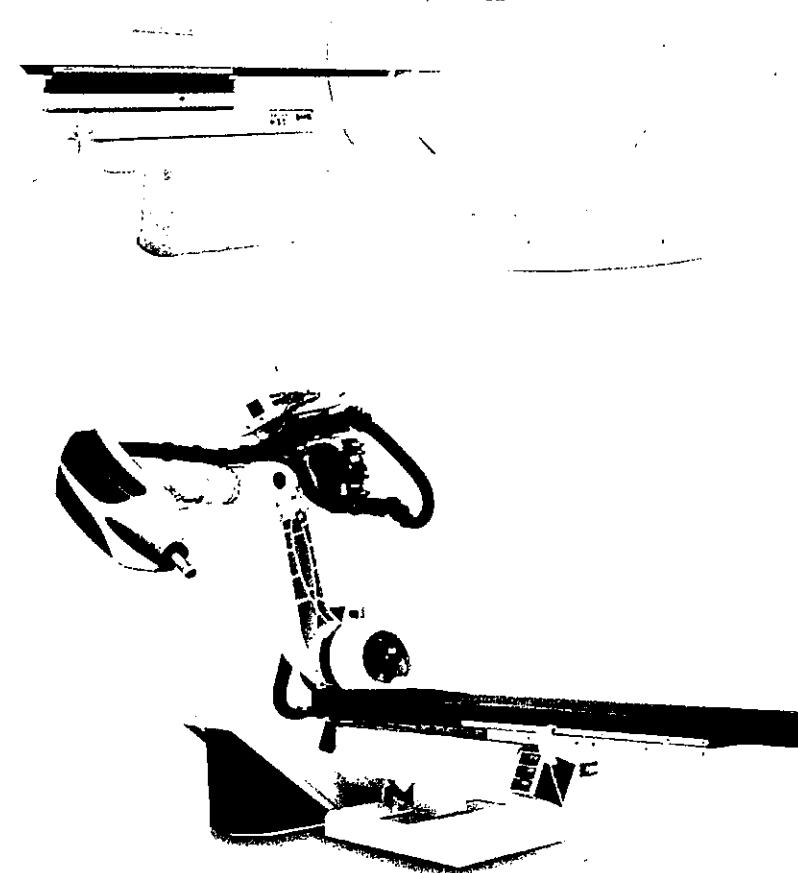
追尾定位・強度変調照射治療



難治癌(肺癌・肝がん・膵癌)の克服

次世代化により実現

# 高精度放射線治療裝置



# 年間外照射人数別(JASTRO構造調査分類による)病院数

都道府県拠点病院 (N=51)

A (1-99)	0
B (100-199)	0
C (200-299)	4
D (300-399)	8
E (400-499)	7
F (500-)	32

地域拠点病院 (N=320\*)

A (1-99)	33
B (100-199)	82
C (200-299)	69
D (300-399)	50
E (400-499)	28
F (500-)	58

\* リニアックなしの3病院と照射人数はずれ値1施設除外

# IMRTの実施率： 56/372, 15%

都道府県拠点病院 (N=51)

■あり □なし

全施設

22

59

A 0

B 0

C 1 9

D 1 7

E 1 7

F 19 13

地域拠点病院 (N=321)

■あり □なし

全施設

34

512

A 0 0

B 3 79

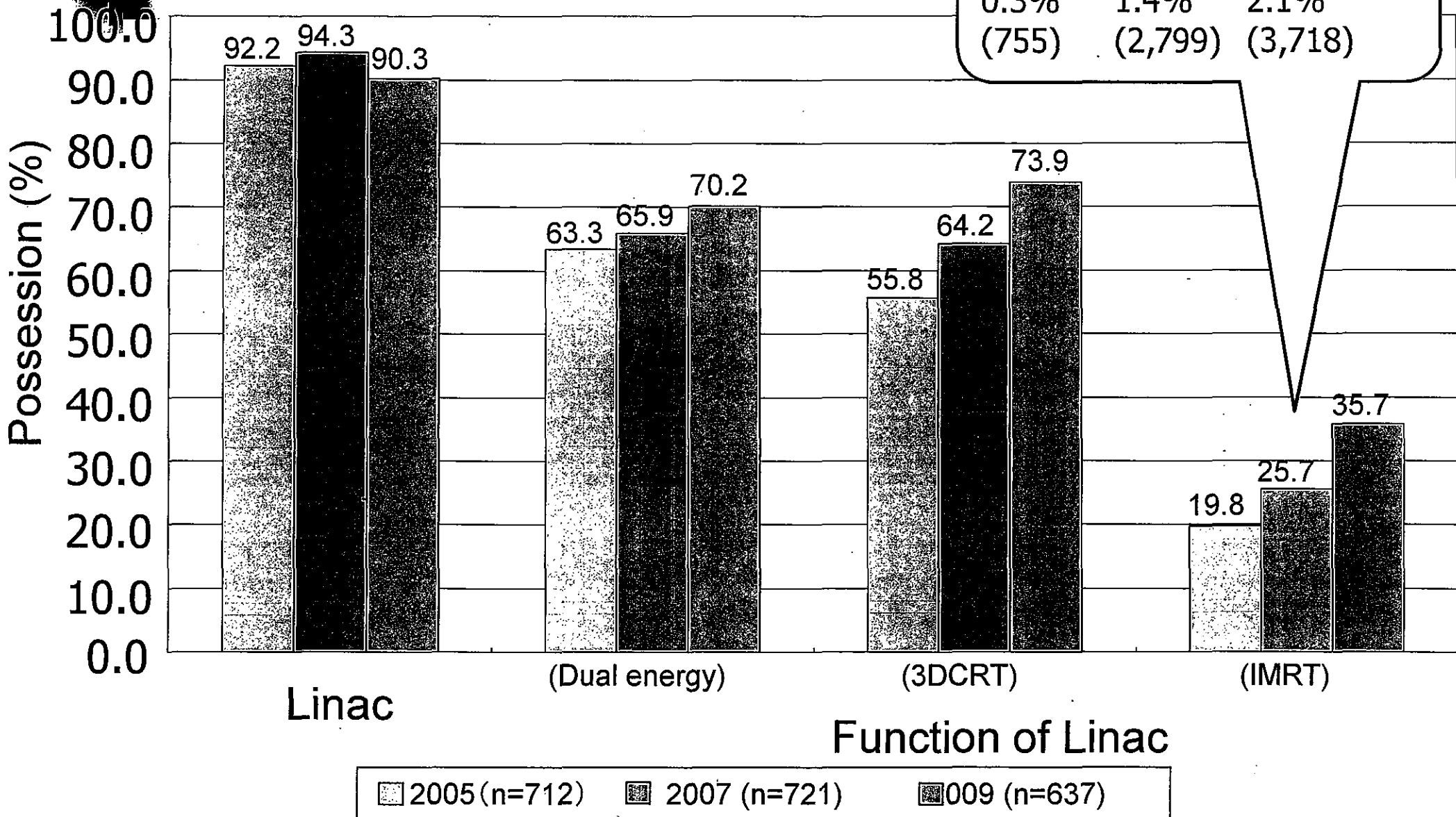
C 2 67

D 4 46

E 5 79

F 19 29

# リニアックと機能の保有率



# 日米放射線治療の構造比較

	日本	米国
調査年	2007	2004
人口(×10 <sup>6</sup> )	127.8	293.9
施設数	765	2,010
新規患者数	約 181,000	700,000
がん患者への適用率	26.1%	66%
放射線腫瘍医 (実質man power)	826FTE	約 4,000
放射線腫瘍医数	1,007	—
医学物理士 (実質man power)	63.9FTE	約 4,000
医学物理士数	180	—

FTE: full time equivalent (週40時間放射線治療専任業務=実質的マンパワーを示す。)